

京都大学教育研究振興財団助成事業 成果報告書

平成 24 年 10 月 1 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 高等教育研究開発推進センター

職名・学年 特定助教

氏名 高橋 雄介 (印)

助成の種類	平成 24 年度 ・ 国際研究集会発表助成	
研究集会名	16th European Conference on Personality (第16回欧州パーソナリティ学会) (http://www.theoffice.it/ecp16)	
発表題目	Spousal similarity for personality traits and marital satisfaction (パーソナリティ特性と結婚満足度に関する配偶者どうしの類似性)	
開催場所	イタリア共和国 フリウーリ＝ヴェネツィア・ジュリア州 トリエステ市 トリエステ大学	
渡航期間	平成 24 年 7 月 9 日 ～ 平成 24 年 7 月 16 日	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()	
会計報告	交付を受けた助成金額	200,000 円
	使用した助成金額	200,000 円
	返納すべき助成金額	0 円
	助成金の使途内訳	航空運賃の一部として: 200,000円 ----- ----- ----- ----- ----- -----
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)	

成果報告書および成果の概要は、財団に郵送(あるいは持参)するとともに、Excel・Wordファイルでメール送信して下さい。メール送信分の印鑑は不要です。

平成 24 年度 京都大学教育研究振興財団
国際研究集会助成報告書

京都大学 高等教育研究開発推進センター
特定助教 高橋 雄介

【 参加学会概要と成果 】

報告者は、2012年7月10日から14日にかけて、イタリア共和国トリエステ市のトリエステ大学において開催された16th European Conference on Personality (ECP16, 第16回欧州パーソナリティ学会; <http://www.theoffice.it/ecp16>)に参加し、ポスター発表を1件行いました。

欧州パーソナリティ学会 (ECP) は、隔年で開催される国際大会で、参加者は欧州圏外を含む40カ国以上から参集します (前回2010年度の実績によると43か国)。パーソナリティ心理学に関する国際規模の学会は3つありますが (欧州パーソナリティ学会・パーソナリティ研究学会・国際個人差研究学会)、とりわけ、この欧州パーソナリティ学会は、欧州を中心とした現代のパーソナリティ研究の最前線に触れることのできる最良の機会です。この国際集会の主たる目的は、パーソナリティ研究の最新の知見に関する発表、研究アイデアの交換、国際共同研究の促進であり、報告者自身もこれまでにこの国際集会を通じてコネクションを持った海外の研究者と共同研究を行う機会を得ることができました。

また、この学会のカバーする学問分野は、パーソナリティ (に関連する個人差) 研究のみならず、パーソナリティ発達・実験認知心理学・社会心理学・産業組織心理学・統計的方法論・測定と評価・文化心理学・政治心理学・行動遺伝学・神経科学など非常に多岐にわたるため、研究者各自の専門としている分野だけではなく、周辺領域の知識を獲得・更新し、自分自身の研究の視野を拓げることのできる非常に有効な機会となりました。

今回報告者が参加したこの学会を含めて、先に挙げた3つのパーソナリティと個人差に関する国際学会への日本人の参加者は、非常に少なく、毎回数名程度です。日本国内では未成熟と言わざるを得ないこの分野において、国際学会に継続的に参加して研究発表を行い、海外の研究者と国際的な関係の構築を行うことは、微力ながら国内の心理学分野の発展に寄与することができたものと考えております。

【 個人の研究発表の概要と成果 】

報告者は、大会2日目の17:30~19:30に、「Spousal similarity for personality traits and marital satisfaction (パーソナリティ特性と結婚満足度に関する配偶者どうしの類似性)」というタイトルでポスター発表を行いました。

パーソナリティ特性は、問題行動や精神病理的な症状をはじめとする心理学的な変数以外にも、社会疫学的な変数(寿命や身体的・社会的健康など)に対しても有意な説明力を持つことが示されています(Heckman et al., 2005; Roberts et al., 2007; 高橋他, 2011)。さらに, Roberts et al. (2009)は, 配偶者のパーソナリティ特性が自分の身体的・社会的健康と正に相関することを示しています。これは, 健康に悪影響を与えるパーソナリティ特性を仮に自分自身もっていたとしても, 配偶者のもつパーソナリティ特性によって, 自分自身の健康は維持・増進され得ることを示唆します。彼らは, これを配偶者のパーソナリティ特性による補完効果(compensatory effect)と呼びました。本研究の目的は, この補完効果をより精緻に検討するための前段階として予備的な検討を行うことでした。具体的には, (1)配偶者どうしのパーソナリティ特性がどの程度類似しているのか, そして(2)結婚満足度が配偶者どうしのパーソナリティ特性の類似性とどのように関連しているのかというふたつの点について検討を行うことです。日本国内の620組の夫婦を対象として, ウェブ調査を行った結果, 婚姻期間を統制してもなお, 配偶者どうしのパーソナリティ特性は類似しており, パーソナリティ特性の差得点に基づく類似性は結婚満足度と関連していることが明らかとなりました。今後は, これらの知見に基づいて, 夫婦間補完効果についても分析を行い, 二時点の縦断データ分析へと拡張を行います。

【 謝辞 】

今回研究発表を行った内容は, 研究論文業績の礎とはなるものの, いくぶん萌芽的なものでありました。しかしながら, 予備的な分析結果を適切な場において研究発表を行うことにより, 海外の研究者から貴重な意見を数多く頂戴することができました。このような萌芽的な段階の研究に対して, 貴財団より研究助成を行って頂きましたことを改めまして心より感謝申し上げます。